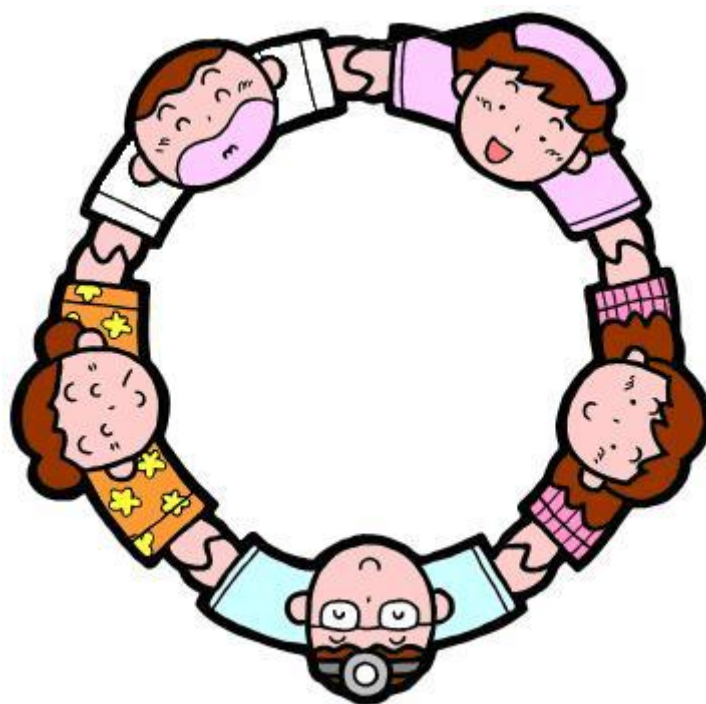


ハーセプチン[®]療法の手引き (トラスツズマブ)



2012年1月改訂版

国立がん研究センター中央病院
乳腺科・腫瘍内科 薬剤部 看護部

はじめに

乳がんの治療は手術、放射線などの局所的な治療の他に、再発やがんの進行を抑える目的で行うホルモン剤や抗がん剤などの薬による全身治療があります。

抗がん剤治療にはいろいろな治療方法がありますが、ハーセプチン[®]療法は、細胞の増殖に関わる HER2 タンパクを過剰発現している乳がんに対する代表的な治療方法です。

抗がん剤の副作用には個人差があって全ての人に同じように起こるものではありません。薬の種類によってもその特徴が大きく違います。

この小冊子にはハーセプチン[®]療法によって起こりうる主な副作用とその対策についてまとめました。ハーセプチン[®]療法によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対処方法を知ることにより、外来通院で治療を続けながらより良い日常生活を送れるよう、ハーセプチン[®]療法を受けられる皆様にこの小冊子を役立てていただければ幸いです。

国立がん研究センター中央病院 乳腺科・腫瘍内科

方 法

《点滴に用いられる薬》：

以下の 1 本の点滴ボトルを点滴します。他の抗癌剤と組み合わせて使うこともあります。

ボトルの内容

点滴時間

ハーセプチン[®]（抗がん剤）+ 生理食塩液 250mL 約30分

※初回は毎週投与で約 60 分、3 週毎投与で約 90 分かかります。

《注射投与方法》： 1 週間又は 3 週間ごとに点滴を行います。

<1 週間隔投与>

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	...
点滴	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	...

<3 週間隔投与>

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	...
点滴	↓			↓			↓			↓		...

《点滴後の頓服薬》：（初回）



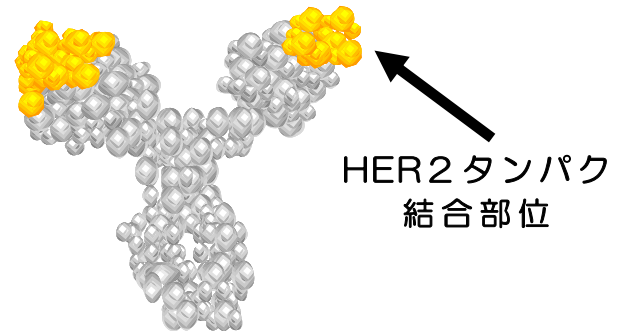
カロナル錠 200mg



発熱時の症状をやわらげる。

発熱時に 2 錠ずつ服用。くりかえし服用するときは 8 時間毎。

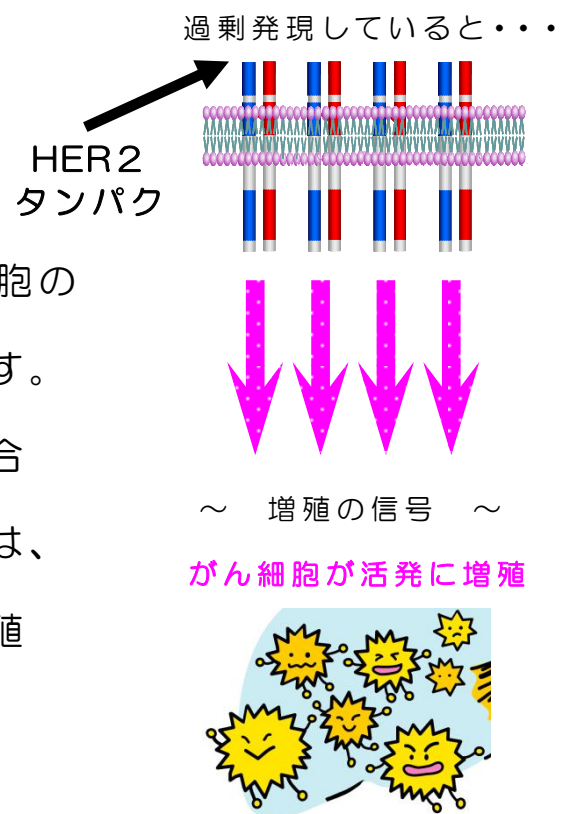
注射名： ハーセプチン®注 (トラスツズマブ)



無色透明（実際の点滴バックは写真と異なることがあります。）

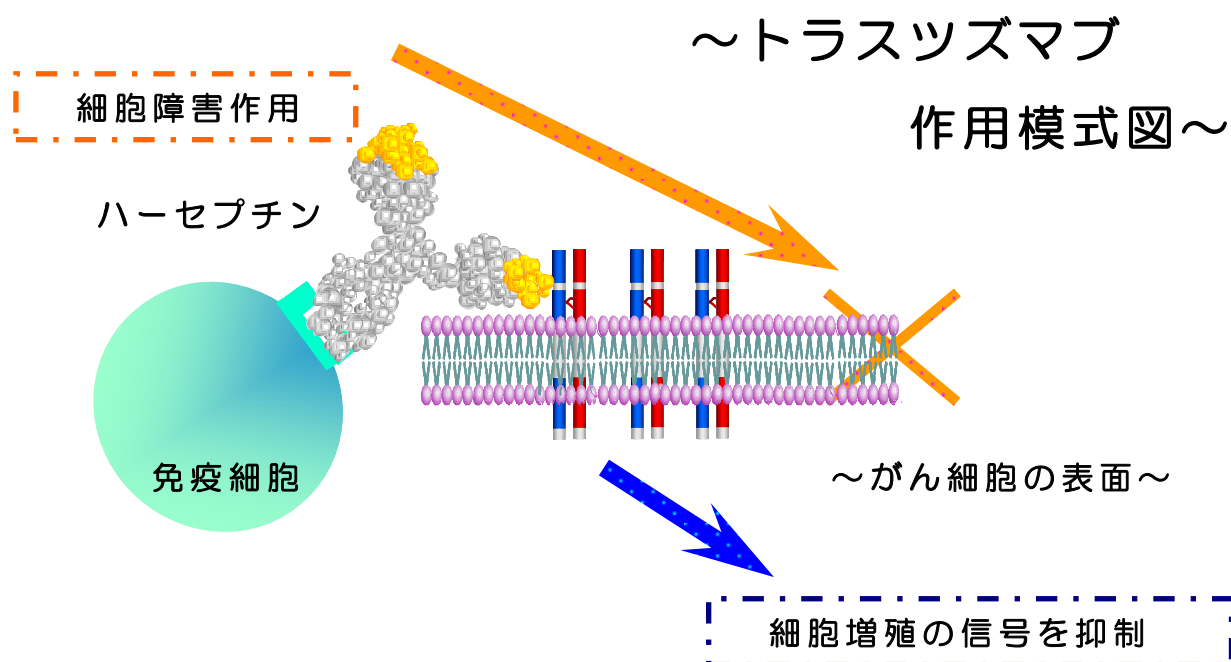
トラスツズマブは、がん細胞表面に存在する『HER2 タンパク』に特異的に結合する抗体です。

この『HER2 タンパク』は、がん細胞の増殖に関係があることが知られています。このタンパクが細胞表面に多くある場合（これを『過剰発現』といいます）には、少ない場合よりもがん細胞が活発に増殖すると考えられています。



トラスツズマブは、『HER2 タンパク』の過剰発現がある場合にのみ使用できるので、事前に病理学的な検査によって、HER2 タンパクの発現状態を確認する必要があります。

トラスツズマブが『HER2 タンパク』に結合することで、がん細胞の増殖を刺激する信号を抑制したり、免疫の働きでがん細胞が壊されることが期待されます。



このくすりは、単独で用いる場合と、他の抗がん剤と併用して用いる場合とがあります。

現在、他のくすりを服用されている方は、事前に医師
または医療スタッフにお知らせ下さい。

副作用とその対策



ハーセプチン®療法を行った際の副作用はすべての方に起こるわけではありません。その程度は個人差があります。以下に主な副作用とその対策について

ご紹介いたしますので参考にしてください。他の抗癌剤と組み合わせて使う場合、副作用が増加することがあります。

注射時反応

くすりの投与中あるいは投与後

24時間以内に多くあらわれる症状です。

主な症状としては、発熱・悪寒（さむけ）です。

初回投与時の10人に4人の割合で見受けられます。

2回目以降では、起こりにくいのが特徴です。

まれに頭痛、息苦しさやふらつきを感じることがあります。このような症状がある場合には、医師または医療スタッフにご相談下さい。



対策： 発熱時には、カロナール錠を服用しましょう。

症状が軽くなります。

注射時反応が出ても2回目以降は症状が無くなるか、軽くなるので、ほとんどの症例でその後も継続して投与が可能です。

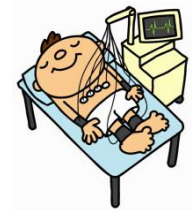
心不全

心不全とは、心臓のポンプ機能が低下した状態のことです。重篤になると生命に危険を及ぼすので、心不全を発症した場合には、ハーセプチン®の治療を中断して心不全の治療を行う必要があります。

心不全の主な初期症状として、階段や坂道をのぼるだけでも息苦しさを感ずる、疲労感が続く、咳が多くでる、手足にむくみが生じるなどの症状があります。



心不全は、ハーセプチン®療法単独で20人に1人程度の割合で見られますが、他の抗がん剤を併用している際にはその頻度が高くなることが報告されています。ハーセプチン®の心不全は投与をお休みすれば回復する可逆的なものが多いとされています。



上記のような症状が気になる場合、心臓の病気の既往がある方は、医療スタッフにお知らせ下さい。また適宜心臓機能検査を行います。

MEMO : _____

お薬の費用について

ハーセプチン®の投与量は投与方法と体重によって決まります。

< 1 週間隔投与 > 1 回目の投与では体重 1kg あたり 4mg、2 回目以降の投与では体重 1kg あたり 2mg を投与します。

体重	投与回数	1 回あたりのお薬の費用	1 回あたりのお薬の負担額 (3 割負担の場合)
40kg	初回	71,655 円	21,496 円
	2 回目以降	47,770 円	14,331 円
60kg	初回	95,540 円	28,662 円
	2 回目以降	47,770 円	14,331 円
80kg	初回	127,658 円	38,297 円
	2 回目以降	71,655 円	21,496 円


< 3 週間隔投与 > 1 回目の投与では体重 1kg あたり 8mg、2 回目以降の投与では体重 1kg あたり 6mg を投与します。

体重	投与回数	1 回あたりのお薬の費用	1 回あたりのお薬の負担額 (3 割負担の場合)
40kg	初回	127,658 円	38,297 円
	2 回目以降	95,540 円	28,662 円
60kg	初回	183,661 円	55,098 円
	2 回目以降	135,891 円	40,767 円
80kg	初回	247,897 円	74,369 円
	2 回目以降	183,661 円	55,098 円

※2012年1月現在の値段です。

※上記はハーセプチン®のみの費用で診察費や検査費などを含んでいません。

※高額医療費の支給制度については、国立がん研究センター中央病院1階の相談支援センターまでご相談ください。



◎ 監修 国立がん研究センター中央病院 乳腺科・腫瘍内科

◎ 編集 薬剤部

◎ 編集協力 乳腺科・腫瘍内科

看護部

◎ 撮影協力 フォトセンター



使用イラストはMPC刊「薬と予防イラスト集」「医療と健康イラスト集」より転載

2007.1 病歴委員会